



2022
2/19 | 土 |
4/10 | 日 |

2022
2/19 | 土 |
4/10 | 日 |

恋と旅と夢
絵を描くために必要なもの。

俺が死んだら
絶対、恋をしろ
好太郎が節子に残した
最期の言葉。

※2月19日(土)は正午から一般公開
開館時間—午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日—毎週月曜日(3月21日(月祝)は開館)、2月24日(木)、3月22日(火)
観覧料—一般1,000円/高大生500円/中学生以下無料
※コレクション展「三岸節子常設展示室」観覧料を含む
※20名以上の団体は2割引
※一宮市内の満6歳以上で住所年齢の確認ができる公的機関発行の証明書を提示された方、身体障害者手帳・聴覚障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳を持参の方(マイポッド可、付添人1人を含む)は無料
主 催—一宮市三岸節子記念美術館、中日新聞社、東海テレビ放送
協 力—株式会社北菓楼
企画協力—産経新聞社

※2月19日(土)は正午から一般公開
開館時間—午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日—毎週月曜日(3月21日(月祝)は開館)、2月24日(木)、3月22日(火)
観覧料—一般1,000円/高大生500円/中学生以下無料
※コレクション展「三岸節子常設展示室」観覧料を含む
※20名以上の団体は2割引
※一宮市内の満6歳以上で住所年齢の確認ができる公的機関発行の証明書を提示された方、身体障害者手帳・聴覚障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳を持参の方(マイポッド可、付添人1人を含む)は無料
主 催—一宮市三岸節子記念美術館、中日新聞社、東海テレビ放送
協 力—株式会社北菓楼
企画協力—産経新聞社

「いちのみや市100周年」関連事業

「いちのみや市100周年」関連事業

貝 殻 旅 行

貝 殻 旅 行

三岸好太郎・節子展

三岸好太郎・節子展

Le voyage des coquillages - Kotaro et Setsuko Migishi -

Le voyage des coquillages - Kotaro et Setsuko Migishi -



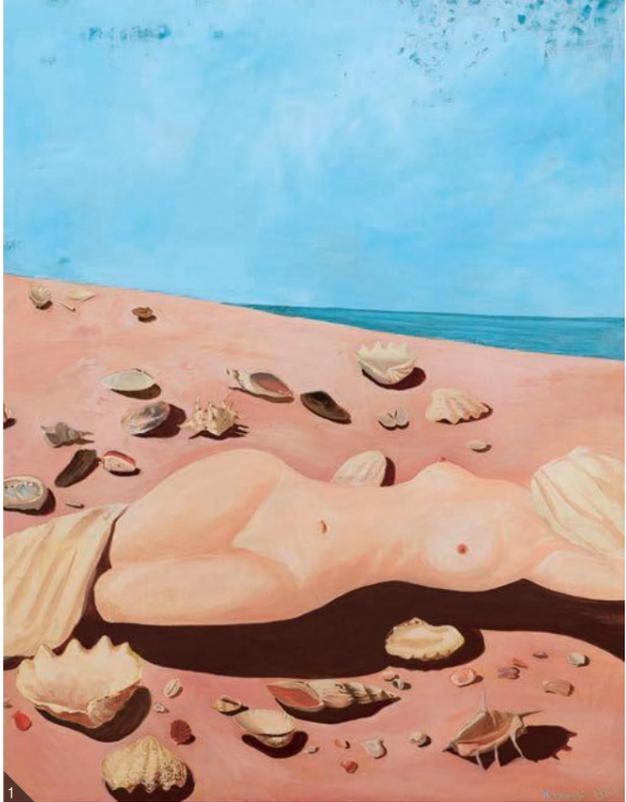
一宮市三岸節子記念美術館
〒494-0007 愛知県一宮市小信中島字郷南3147-1
TEL:0586-63-2892 FAX:0586-63-2893

一宮市三岸節子記念美術館
〒494-0007 愛知県一宮市小信中島字郷南3147-1
TEL:0586-63-2892 FAX:0586-63-2893



二人の出会いから百年――過去最高の夢の共演――

二星の如く画壇に現れ、独自のロマンティックな世界を描いた夭折の画家、三岸好太郎。北海道札幌市生まれ／一九〇三―一九三四。女流洋画家の先駆的存在として苦難の道を切り拓いた文化功労者、三岸節子（愛知県一宮市生まれ／一九〇五―一九九九）。日本の洋画史上最も有名な夫婦の出会いから百年を迎えることを記念し、約三十年ぶりの全国巡回の二人展を



- 1.《海と射光》(部分) 1934年 福岡市美術館蔵 第4回独立展に出品した「蝶と貝殻」のシリーズのうち最も大きい100号の大作。
- 2.《少年道化》(部分) 1929年 東京国立近代美術館蔵 舞台裏で哀愁を漂わせる道化役者。その姿に自分自身を重ねていたのかもしれない。
- 3.《赤い肩かけの婦人像》(部分) 1924年 北海道立三岸好太郎美術館蔵 好太郎は、19歳の画学生だった節子の家にあししく通い、時間をかけて節子の肖像画を描いた。
- 4.《雲の上を飛ぶ蝶》(部分) 1934年 東京国立近代美術館蔵 好太郎最期の連作の一点。節子は、「蝶が雲の上を飛ぶように、後の魂も天外にゆけ去った」と綴っている。
- 5.《女の顔(絶筆)》(部分) 1934年 北海道立三岸好太郎美術館蔵 好太郎が急逝した旅館の部屋に残されていた、節子の顔を描いた絶筆。
- 6.《のんびり貝》(部分) 1934年 北海道立三岸好太郎美術館蔵 太陽が西に傾き砂浜を桃色に染めている。穏やかな光と風。のんびり貝たちの夢幻の時間。

三岸好太郎

三岸好太郎は北海道札幌区(札幌市)生まれ。札幌第一中学校(札幌南高等学校)で図画教師、林竹治郎に出会い、在学中から油絵にのめりこみました。卒業とともに画家を志して上京。アルバイトをしながら絵を描き、同年代の画学生と交流し、出会ったのが女子美術学校に通う吉田節子でした。好太郎二十一歳、節子十九歳で結婚。ともに春陽会展、独立美術協会展で活躍。特に好太郎は、国内外の美術潮流を敏感にとらえて常に新しい表現を求め、注目を集めました。一九三四年三月、甘美で詩的な「蝶と貝殻」のシリーズを独立美術協会第四回展で発表ののち、「貝殻旅行」と称した夫婦旅行の直後、三十一歳で急逝しました。

開催します。

本展では、出会いから結婚、「貝殻旅行」と称した最後の夫婦旅行と好太郎の急逝、その後の節子の奮闘の軌跡をたどり、二人が築いた鮮烈なる絵画世界を紹介します。愛し、時に憎み、追慕しながら、唯一無二の画家夫婦となっていく波乱万丈の「旅路」をご覧ください。



好太郎と節子。1932年頃、鷺宮の自宅の前で。©MIGISHI

Kaizana Kyoko 貝殻旅行

1934年、好太郎は新アトリエ建築の夢に取り憑かれています。資金の奔走に明け暮れるなか、《のんびり貝》が化粧品大手の社長に売れ、好太郎は上機嫌になり、節子を二人だけの旅に誘いました。6月、「貝殻旅行」と称して大阪、奈良、京都、神戸をめぐるりますが、その帰途、節子だけを東京に帰し、一人名古屋にとどまりました。そこで好太郎は、持病の胃潰瘍が悪化。吐血と心臓発作で7月1日、蝶のように飛び立ちました。享年31歳。

貝殻旅行×限定スイーツ！

- 尾西金蝶堂 **和菓子「花ト蝶」販売**
好太郎の<蝶>をイメージした羽二重餅と節子の<桜>をイメージした桜餅のセットを、美術館喫茶コーナーで販売
毎週土曜10:00～(各日10セット)
- TSUBOYA **カヌレ販売**
好太郎と節子をイメージしたカヌレを、美術館喫茶コーナーで販売
2月27日(日)、3月20日(日) 10:00～(各日300個)
- 北菓楼 **バウムクーヘン「妖精の森」プレゼント**
好太郎の故郷・北海道の北菓楼から、バウムクーヘンをプレゼント
毎週火・水曜9:00～(各日先着50名)
- 《春の野辺》キャンディプレゼント
夫婦(カップル)で来館されたお客様に、好太郎が節子へのプロポーズを描いた幻の作品《春の野辺》を再現したキャンディをプレゼント
毎週金曜9:00～(各日先着10組)

同時開催

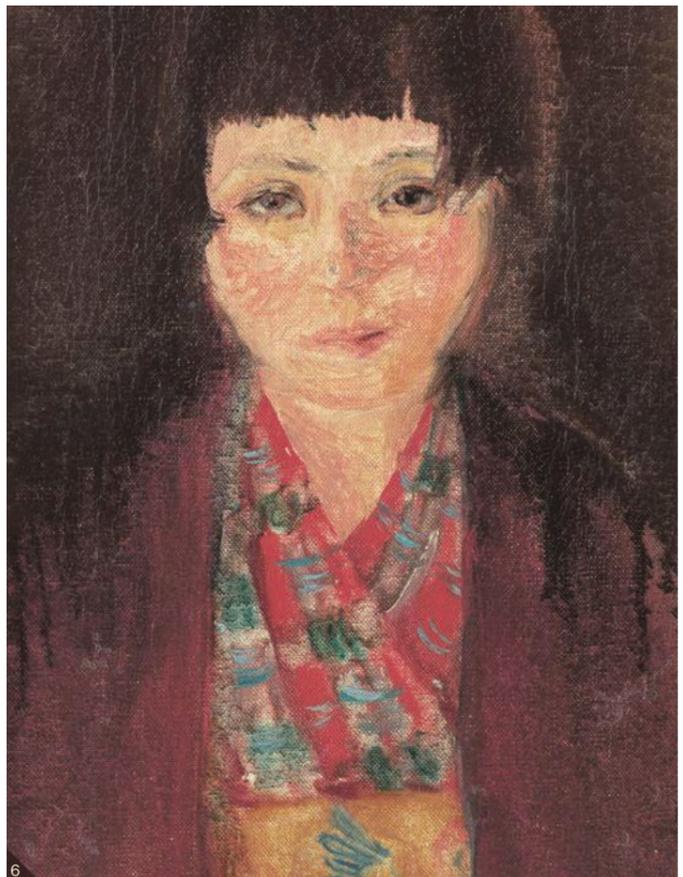
コレクション展(常設展) **「素描画の魅力」**

節子は常に傍らにスケッチブックを置き、気に入った対象があればすぐに素描に取り掛かっていました。パステル画、水彩画、デッサン等を展覧し、節子の素描作品の魅力に迫ります。

【会期】2月19日(土)～4月10日(日)

三岸節子

- 1.《さいたさいたさくらがさいた》(部分) 1998年* 節子93歳。最後の力をふりしぼるかに描いた大作。渦を巻くように咲き誇る桜。
 - 2.《アルカディアの赤い屋根(ガチズにて)》(部分) 1988年* スペインでの連作。「私には色がある。赤い色があるんです。これが私の一番の強み」
 - 3.《静物(金魚)》(部分) 1950年 東京国立近代美術館蔵 ©MIGISHI 窓際におかれた器やゴブレットに楕円の金魚鉢。黒い金魚は、好太郎が好んで描いた。
 - 4.《作品I》(部分) 1991年* 太陽と、夫婦のように寄り添う二つの壺と少しの青空。
 - 5.《花・果実》(部分) 1932年* 好太郎とともに独立展に出品し、初入選した作品。黄色いテーブルは好太郎と共通のモチーフ。
 - 6.《自画像》(部分) 1925年* 20歳の自画像。この絵を描いていたとき、節子はすでに好太郎の妻であり、長女を身ごもっていた。
- *一宮市三岸節子記念美術館蔵 ©MIGISHI



節子は愛知県起町(一宮市)生まれ。名古屋の愛知淑徳高等女学校在学中、実家の織物工場が倒産し、一家の名譽を取り戻すと言い上京。岡田三郎助の画塾を経て、女子美術学校(女子美術大学)で学びました。好太郎との出会いは、在学中のこと。女子美術学校を首席で卒業し、その年の秋に結婚。春陽会展と独立美術協会展で才覚をあらわし、好太郎の死後、三人の子を抱えながらも画家として大きく飛躍。好太郎が果たせなかった渡欧の夢を受け継ぎ、四十九歳ではじめて渡仏。六十三歳で本格的にフランスに拠点を移して制作。濃厚な色彩とマチエールに到達しました。神奈川県大磯町にもアトリエを構え、九十四歳で好太郎のもとへ逝きました。

関連行事

●**オープニングコンサート**
【日 時】2月19日(土) 11:00～(開場10:00)
【出 演】AJATE(アジャテ)
【特別出演】サカイダコージ
【観覧料】2000円(「貝殻旅行」観覧料を含む)
【申込み】2/1(火)より電話0586-63-2892にて受付(先着30名、全席立見)
※2月19日(土)午前は内覧会招待状持参者およびコンサート申込者のみ入館可

講演会

●**「二人が会って100年」**
【日 時】2月26日(土) 14:00～(開場13:30)
【講 師】三岸好太郎氏 (三岸好太郎・節子孫、高輪画廊代表)
【定 員】60名(先着)
観覧無料／事前申込不要(当日直接会場)

ワークショップ

●**貝殻旅行×おぼけのマール「モーニングもういっかい!」**
「ものがたりのつづきを描こう!」
【日 時】3月6日(日) 14:00～15:30
【対 象】年少～小学6年生 (小学3年生以下は保護者同伴)
【定 員】12名(抽選)
【参加費】300円
【申込み】2/15(火)までに電話0586-63-2892、メールmigishi@city.ichinomiya.lg.jp、ハガキ(〒494-0007一宮市小信中島字郷南3147-1)にて、郵便番号・住所・参加者名(ふりがな)・保護者名・学年・電話番号を記入し「貝殻旅行ワークショップ」と明記の上申込み
©Rei NAKAI/NAKANISHI PUBLISHING CO.,LTD

●**好太郎美術館×節子美術館 学芸員クロストーク**
【日 時】3月20日(日) 14:00～(開場13:30)
【ゲスト】北海道立三岸好太郎美術館 副館長 五十嵐聡美氏
【定 員】50名(先着)
観覧無料／事前申込不要(当日直接会場)

ミュージアムパフォーマンス

●**「道化とアコーディオンの調べ」**
【日 時】3月27日(日) ①11:00～②14:00～(各回20分程度)
【出 演】LONTO(ラストラダカンパニー) アコーディオン かいだむつみ
【観覧料】無料(要「貝殻旅行」観覧券)
【定 員】50名(先着)
【申込み】不要(当日直接会場)
※当日、入場制限をする場合があります。

●**学芸員によるギャラリートーク**
【日 時】2月27日(日)、4月2日(土) 各日14:00～
参加無料(要「貝殻旅行」観覧券)
事前申込不要(当日直接会場)

・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予告なく中止・変更となる場合があります。最新情報は当館SNSをご確認ください。
・当館および一宮市が取材した記録映像・音声等は、加工せずそのままウェブサイトや広報誌に掲載することがあります。

一宮市三岸節子記念美術館
〒494-0007 愛知県一宮市小信中島字郷南3147-1
メールアドレス migishi@city.ichinomiya.lg.jp http://s-migishi.com

【交通案内/公共交通機関をご利用の場合】名古屋駅より電車とバスで約40分

●JR東海道本線(名古屋駅⑤⑥番)にて「尾張一宮駅」下車、または名鉄名古屋本線にて「名鉄一宮駅」下車(JR新快速・名鉄特急で10～15分)、一宮駅西口の名鉄バスターミナル②番のりばから「起(おこし)」行きで約15分、「起工高・三岸美術館前」バス停下車、徒歩1分。[バスは1時間に3本運行] ●岐阜羽島駅(東海道新幹線)よりタクシーで約20分

f @s.migishi.museum @s.migishi.museum @s_migishi_muse

